



千葉県では、それまで第1次産業が中心であった**県産業の工業化**を進め、県民所得の向上や雇用機会の増大等を図るため、**昭和20年代後半から半世紀をかけて、東京湾岸の浦安市から富津岬に至る遠浅の海を埋立てし、「京葉臨海地域」の土地を造成**してきました。広さ約10,675haという広大な土地は、県の製造品出荷額の6割以上を担う一大工業地帯になっています。

京葉臨海地域（青色部が埋立地）



おいま
—— 生浜地区～富津地区 ——

基幹産業の誘致

昭和20年代後半以降、県は、京葉臨海地域のうち、**千葉市中央区川崎町から富津市までを鉄鋼・電力・石油などの基幹産業を中心とした**重化学工業地帯**とするために、積極的な工場誘致を行いました。**

川崎製鉄(株)の誘致(昭和25年)や、産業エネルギーの一つとして欠かせない電力を供給する東京電力(株)の誘致(昭和29年)を端緒として、大企業による工場の建設・稼働が本格化し、工業地帯として大きく発展するに至りました。



生浜地区 川崎製鉄 (昭和40年代)



埋立前地形



(左上・下) 埋立土砂を運ぶ送泥管
(右) 埋立地で遊ぶ子どもたち (木更津、昭和40年代)

—— 千葉港中央地区～浦安地区 ——

都市施設としての土地利用計画

昭和30年代後半以降、首都圏の急激な人口増加に対応するため、**千葉市中央区(出洲港)から浦安市に至る地域**では、工業団地とともに、学校・道路・公園・緑地などの公共公益施設を備えた**街づくり**が計画されました。



海浜ニュータウン(千葉市稲毛・検見川地区、平成8年)

地区ごとに、千葉港中央地区では千葉市の港湾整備・都市的施設用地が、稲毛・検見川・幕張A・B・C地区では大規模なニュータウン用地が、浦安地区では住宅用地・鉄鋼流通基地用地および大規模レジャー施設用地が、それぞれ確保されました。

特に幕張A・C地区については、業務研究・文教・住宅用地等を配置した国際業務都市「幕張新都心」と位置づけ、街づくりを行いました。



幕張新都心埋立ての変遷



埋立前(昭和42年)



埋立後(昭和63年)



現在の様子(平成28年)

富津埋立記念館

埋立前に行われていた伝統的漁業と、かつての海の姿を伝える。



(写真提供 富津公民館)

所在地 : 富津市新井932-3
アクセス : JR内房線青堀駅から日東交通バス富津公園行「新井」下車 徒歩3分
開館時間 : 9時～17時(月曜・祝日・年末年始は休館)
入館料 : 無料

千葉ポートタワー

千葉港を中心とした京葉臨海地域を俯瞰できる。



所在地 : 千葉市中央区中央港1丁目ポートパーク内
アクセス : 千葉都市モノレール・JR京葉線 千葉みなと駅下車 徒歩12分
開館時間 : 9時～21時(10～5月は平日19時、土日祝は20時まで)
入館料 : 大人420円(小・中学生200円)



東京湾と長浦～五井・姉崎地区の工業地帯(平成26年)